

中学校社会科 歴史的分野学習指導案

1 単元名 「日本の民主化と国際社会への復帰」その2

2 単元の概略

- 戦後改革の内容と戦前の様子とを比較し、政治・経済・社会の各分野がどのように民主化されていったのか理解できる。
- ポツダム宣言、サンフランシスコ平和条約により、日本の領土がどのように決められたか理解できる。
- 東西冷戦が激化していく中で、日本が西側陣営に組み込まれていったことと北方領土問題とを関連させて考えることができる。

3 北方領土教育への視点

- ポツダム宣言受諾後も北方領土には日本人が暮らしていたこと、そこにソ連軍が侵攻してきて日本人を強制的に追い出したという事実によって、日本の返還要求運動の正当性を理解できる。
- 北方領土問題が複雑・長期化した背景に東西冷戦があることと、その中で政府や民間が協力しながら問題解決に粘り強く取り組んできていることを理解できる。

4 単元展開の大要 (全4時間) < >内は北方領土に関する指導

- 第1時：ポツダム宣言受諾後、領土を一部放棄したこと、GHQの指示により日本の民主化(戦後改革)が進められていったことを理解する。<ソ連による不当占領と大戦前後の北方領土に住む人々の生活の様子>
- 第2時：戦後改革の中心としてつくられた日本国憲法をもとに、様々な法律が改正されていったことを理解する。
- 第3時：国際連合の成立後、平和への願いに反して、ドイツの分裂や中華人民共和国の成立、朝鮮戦争を通して東西冷戦が強まっていく中で、サンフランシスコ平和条約が結ばれ、日本は西側へと編入されていったことを理解する。<日ソ共同宣言と北方領土問題>
- 第4時：東西冷戦の影響でソ連との間に平和条約が結ばれず、北方領土問題が残され、その後、日ソ外交交渉と返還運動が粘り強く取り組まれてきたことを理解し、返還のために一国民として何をすべきか考える(本時) <日ソ外交交渉と返還運動の推移>

5 本時の展開概要

《主なねらい》 主な学習内容と大まかな流れ	指導上の留意点	使用資料
導入 ① 日ソ共同宣言を読み、その中身と意味を理解し、北方領土返還への取り組みに興味・関心を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">学習問題 共同宣言の後、北方領土返還に向けてどのような取り組みがされてきたのだろうか。</div>	・資料1を読ませ、要点をまとめさせ、学習への関心を高める。 * 押さえること ①日ソの戦争終結(共同宣言) ②歯舞・色丹のみの返還 ③日本の国連加盟を支持	資料1「日ソ共同宣言」 (資料集)

<p>展開</p> <p>② 北方領土の歴史的な歩みから、我が国固有の領土を返還してもらうためにどのような取り組みをしてきたか調べる。</p> <p>③ 外交交渉と共に、地元（根室）を中心に返還要求運動も起こってきたが、一時的な盛り上がりはあったものの、あまり国民全体の運動につながっていないことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方領土の日制定 ・返還要求全国署名運動 ・ビザなし交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2・資料3を提示し、日ソ共同宣言以降の外交交渉の経過を読み取らせ、政府を中心に返還に向けての取り組みが行われてきたことを理解する。 ・地元を中心に返還要求運動が広がっていったが、国内世論が盛り上がっていないことに気づかせる。 	<p>資料2 「日ソ間の外交交渉の歩み」</p> <p>資料3 「返還要求運動の歩み」</p>
<p>終末</p> <p>④ 同じ中学生が書いた意見文である資料4を読み、元島民を中心に返還運動が粘り強く行われている中で、日本人として北方領土問題解決のために自分がすべきことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4で地元民の思いを知らせ今後の返還運動をどうしていったらよいか、また、自分としては何をすべきなのかを問いかけた後、カードに記入させる。 	<p>資料4 「伝えてゆく島への想い」（根室の中学生の意見文）</p>
<p><時間がある場合></p> <p>⑤ 学習を振り返って、北方領土に関する標語を考え、応募用紙に記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北方領土問題の啓発活動の一環として標語募集を行っていることを伝え、学習のまとめとして標語をつくることを提案する。 	<p>資料5「標語募集要項」</p>

6 使用資料や展開にあたっての留意点

資料1「日ソ共同宣言」（生徒の持っている歴史資料集）

資料2「日ソ間の外交交渉の歩み」

資料3「返還要求運動の歩み」

資料4「伝えてゆく島への想い」（根室の中学生の意見文）次頁

資料5「北方領土問題に関する標語募集要項」

* 資料2・3 <http://www.hoppou.go.jp/gakusyuu/islands/index3.html>

* 資料5 <http://www.hoppou.go.jp/library/slogan/index2.html>

いずれも「独立行政法人 北方領土問題対策協会ホームページ」

「伝えてゆく島への想い」

根室市立啓雲中学校3年 木村成美

近そうで遠い…北方領土。あなたは島についてどう思いますか？

私は、祖父が北方領土出身ということを母から聞かされるまで、島の名前くらいしか知りませんでした。

祖父は72歳になりますが、よく島の話をしてくれます。

私の祖父が育ったのは、歯舞諸島の中にある島でした。

「多楽島という島はなあ水産物が豊富で、いっぱいいっぱい魚が捕れたでな。10メートルもある鯨なんか捕れると、島のみんで分け合ったりして、みんな仲良く暮らしていたもんだ。」

そう楽しそうに語る祖父に私はある質問をしました。

「じゃあ、なぜ島から逃げてきたの？」

するとさっきまで楽しげに話していた祖父の顔がみるみる悲しそうな顔になりました。

「あれは、忘れもしない、ようやく戦争が終わったというのに、いきなりソ連兵が銃を持って島に上陸し、占領したんだよ。わしらはソ連兵が見ていないすきに、着のみ着のままポンポン船に乗って逃げてきたんだよ。あの時は、恐ろしくて涙も出なかった。」と語る祖父は、目をタオルでふくのです。

私はこの話を聞いた時、祖父がどのような思いで自分たちが住んでいた島を出たか、計り知れない気持ちでいっぱいになりました。

この時から、私は返還運動にたずさわろうと心に決めました。

去年の夏のことです。私は富山県の中学生との交流会に参加しました。そこでは、祖父以外の元島民の方々の話を聞いたり、領土のことを話し合ったりしました。話し合いでは富山県の中学生の方が、領土に近い私たちよりも興味を持っていて詳しく、私にはびっくりしました。根室に住んでいる私たちは富山県の中学生を見習わなければならないと思いました。そして前よりも北方領土のことについて調べるようになったのです。

その一つですが『北方墓参』について調べました。北方墓参とは島にお墓参りに行くことで戦後、島民の人たちが「せめて墓参りぐらいさせてほしい。」という願いから始まったことです。しかし島へ墓参りに行っても時間と場所が決められていて自由に動き回ることさえ許されないのです。そんな不自由な墓参りでも島へ行くのを楽しみにしている元島民の人たちがいます。私は島民の人たちを自由に行き来できるようにしたいのです。

でも、今現在、元島民は高齢者がほとんどで大半は2世・3世に変わってきています。そんな時代の中、領土に関する関心が薄れてきていて知らない人たちが増えてきています。私はこのままだと北方領土が忘れ去られていく気がします。

このままでいいんでしょうか？

いいえ、忘れ去られていいはずがありません。

私は、元島民の話を聞くうちに、島で暮らしていた人たちの帰りたい思いを無駄にはできないと思うようになりました。

そのためには、日本から、地元である根室から私たちが変わらなければなりません。

祖父の悲しみや無念さを聞くだけでは北方領土は返ってこないのです。

これからは私たちの番です。私たちが北方領土に興味を持ち学び、元島民の想いを今の世代に伝えてゆくのです。私は、元島民3世として地元である根室から声を発し返還運動にたずさわっていくことを決意します。